

科目名	舞台実習 I							年度	2025
英語科目名								学期	前期
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必/選	選	時間数	105	単位数	3	種別※	実習+実技
担当教員	靄田俊哉、中野志朗、稲葉賀恵		教員の実務経験			実務経験の職種			
【科目の目的】 学生が想像力を表現活動に昇華し、身体的、精神的な創造活動としての演技を学ぶ。									
【科目の概要】 舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。									
【到達目標】 A. 俳優としてのコミュニケーションがとれる。一自己の演技の認識、他社の演技の理解 B. 俳優として音声表現ができる。一声量、感情表現、的確な抑揚、アクセント C. 俳優として身体表現ができる。一筋肉の解放、舞台空間で行動ができる。 D. 戯曲を読みとることができる。 E. A～Bを習得、演技を実践する。									
【授業の注意点】 学生とのコミュニケーションを重視し、明るく、清々しい授業空間を作る。なお学生の心身が健全、健康であることを何より優先する。 学年末に行われる卒業公演以外は、週2回の授業時間内で稽古するため、集中して取り組むことが大切である。また、何人かのグループで稽古を行うことになるので、遅刻欠席は稽古に支障をきたすことになる。体調管理には十分な注意を払うこと。 授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	腹式呼吸を完全に習得し、明瞭で感情豊かな発声ができる。	腹式呼吸を使いこなし、安定した声量と適度な抑揚が出せる。	腹式呼吸を使いこなし、安定した声量と適度な抑揚が出せる。	腹式呼吸を意識するが、不安定で声量や明瞭さに課題が残る。	腹式呼吸が身につけておらず、声量や明瞭さが不足している。				
到達目標 B	正確な音程と豊かな表現力で感情を伝える歌唱ができる。	音程が安定し、適切な抑揚で魅力的な歌唱ができる。	音程が安定し、適切な抑揚で魅力的な歌唱ができる。	音程やリズムにばらつきがあり、表現力が十分でない。	音程が不安定で、リズムや表現力に大きな改善が必要。				
到達目標 C	柔軟で洗練された動きで、感情や状況を的確に表現できる。	安定した身体コントロールで、感情や状況を表現できる。	安定した身体コントロールで、感情や状況を表現できる。	動きにぎこちなさがあり、感情や状況の表現が不十分。	身体の動きが不安定で、表現力を高める基礎練習が必要。				
到達目標 D	深い役解釈と独自の工夫で、説得力のある演技ができる。	役背景を理解し、安定した演技でキャラクターを表現できる。	役背景を理解し、安定した演技でキャラクターを表現できる。	役の理解が浅く、演技に説得力や一貫性が欠けている。	役の解釈が不十分で、演技に取り組む姿勢の改善が必要。				

到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い
-----------	-----------	--------------	--------------	----------	-------------

【教科書】

レジュメ・資料は必要に応じて配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		舞台実習 I			年度	2025
英語表記					学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	俳優の身体への準備	俳優の基本的な素養と身体表現を体感する	肉体訓練	筋肉の緊張と解放		
			発声	声の配置、語法—自分の声を知る		
			シアターゲーム	コミュニケーション、感情の解放		
2	俳優の身体への準備	俳優の基本的な素養と身体表現を体感する	肉体訓練	筋肉の緊張と解放		
			発声	声の配置、語法—自分の声を知る		
			シアターゲーム	コミュニケーション、感情の解放		
3	俳優の身体への準備	俳優の基本的な素養と身体表現を体感する	肉体訓練	筋肉の緊張と解放		
			発声	声の配置、語法—自分の声を知る		
			シアターゲーム	コミュニケーション、感情の解放		
4	演技へのイントロダクション	身体表現の実践	シアターゲーム	テンポとリズムの感覚を得る		
			エチュード	短い題材を使って相手役と演技を体感、実践する		
5	演技へのイントロダクション	身体表現の実践 相手役と共に	シアターゲーム	テンポとリズムの感覚を得る		
			エチュード	短い題材を使って相手役と演技をする		
6	演技へのイントロダクション	身体表現の実践 アンサンブルを考える	エチュード	複数の俳優間で演技、アンサンブルを考える		
7	演技へのイントロダクション	戯曲を分析してみる	戯曲分析	戯曲の構成、意図の理解		
			読み合わせ	話法（①抑揚、②間、③アクセント）		
8	演技へのイントロダクション	戯曲を表現してみる	戯曲分析	戯曲の構図、意図の理解		
			読み合わせ	状況設定の想像と情緒的獲得		
9	演技へのイントロダクション	立稽古を想定して読む	戯曲分析	戯曲の構図、意図の理解		
			読み合わせ	全体を通して、語感、リズム、テンポの検証		
10	演技へのイントロダクション	立ち稽古1クール	立ち稽古	位置、動線の確認。場の成立を目指す。必要に応じて読み稽古も交える。		

11	演技へのイントロダクション	立ち稽古1クール	立ち稽古	位置、動線の確認。場の成立を目指す。必要に応じ読み稽古も交える。
12	演技へのイントロダクション	立ち稽古発表に向けてのステップ	立ち稽古	1クールからの修正。情緒の交流を図る。違うニュアンスの発見、再創造。
13	演技へのイントロダクション	立ち稽古2クール	立ち稽古	1クールからの修正。情緒の交流を図る。違うニュアンスの発見、再創造。
14	演技へのイントロダクション	立ち稽古発表に向けてのステップ	立ち稽古 会場の稽古	場のつながり、全体の把握
15	演技へのイントロダクション	発表	この実習の課題発表	現時点での習熟度を体感、確認する。
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他				
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった				
備考 等				